

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞

支え合う仲間

熊谷市立荒川中学校 一年 小池 真理子

「税」と言われても私の頭に浮かぶのは、消費税五%だけ。税についてテレビや新聞で報道していても、難しすぎて関心も持てなかった。もちろん公的サービスや公共施設が税によって賄われていることは知っているが、それは国民として受けるのは当たり前でそれ以上深く考えたことは一度もないというのが、私の現状であった。

それに、税金は私の中で、「とられる」というイメージが強い。江戸時代の百姓は、貧しくても重い年貢を納めなければならなかったし、現在にも約五十種類もの税金があると聞いた。その税が一体どのような事のコストに使われているのか、税金は誰のために有るものなのか、国民のひとりである私なのだから知らなくてはならないのではと思った。

税金は、国を維持し発展させていくために欠かせないものだ。そこで憲法では納税することを国民の三大義務としている。税には、所得税・住民税・法人税・関税・酒税など様々なものがあるが、私にとって最も身近な税といえば消費税だ。たった百円の品物を買う度に五円の消費税を払う私も、立派な納税者なのである。そして私の納めたほんの少しの税金が、公共サービスや公共施設の他に、社会保障・公共事業・経済協力などのたくさんの費用となっていることに気付いた。中でも開発途上国の生活環境を改善し、自立を支援するために私達日本国民が納めた税を使っているとは知らず、嬉しくてたまらなかった。また、同じように日本国民が納めた税の一部が、私のためにも存在することを知った。私のような公立中学校に通う生徒一人当たりの年間教育費に、なんと約九十四万円も使われているのだ。その時、初めて自分が国中の人々に支えられていることに気付いた。それと同時に、「税なんて私とは関係ないんだ」と考えていた自分が恥ずかしくなった。

一人では生きていけない人間が、社会で生活していくために、税金を通して支え合っている。「とられる」とばかり思っていた税金が、自分達が本当に暮らしやすい環境や社会を作っているのだ。私は父や母のように、働いて収入を得ているわけでもなければ、直接政治に関わることもできない。それでも私は支え合う国民のひとりなのだし、将来自分の収入から納税するようになった時、社会を担うひとりになるだろう。ここまで私の意識を変えてくれたこの宿題に感謝したいと思う。そしてこれからは私のように税に関心を持たない国民の意識を高めていくことが、納税する私達に課せられる本当の宿題ではないだろうか。